

社会系（地理歴史） 教科指導法

第13-14講 授業の評価法①

—改善の作法：内在的批判と外在的批判—

より「良い」授業に改善するために、私たちにできることをやってみよう！

先週の作品の ワイルドカードの使い方



注目したい ワイルドカード①

7班 理論を再解釈する (メキシコの借金)

教科書を読んで
扱いたい主題を選ぶ

授業の骨組みをつくる。
(7班)

目標と学習課題
(MQ)を定める

"何を考えさせたか"という
方向性を定める。

子どもの見方を
予想・調査する

子どもの既存の知識を確認
し、思いつきとすれを
やせが/とかける。

科学者の見方を
理解・調査する

子どもが知らない理論を
探す。

この授業では
理論を再解釈する
ワイルドカード

科学者の理論と、メキシコに
あてはめて子どもが理解しやすい
ように言い換える。

資料・データを集めて
使い方を決める

わかりやすい資料を探す。

注目したい ワイルドカード②

13班 教えたい内容と 教科書の内容の すり合わせ (メキシコの借金)

教科書を読んで
扱いたい主題を選ぶ

13班
教科書の最後の
1文を扱う

教えたい内容と
教科書の内容の
すり合わせ

最後の1文 ~~から~~ から
見開きと全体の内容を
考える

目標と学習課題
(MQ)を定める

子どもの見方を
予想・調査する

子どもの素朴概念を
把握する

科学者の見方を
理解・調査する

資料・データを集めて
使い方を決める

素朴概念と接し、考え方やノート・資料を
あつめ、MQにしたがるための問いを設定し、
授業を構成する。

注目したい ワイルドカード③

14班 授業を行う学級の 生徒観を捉える (石山合戦)

14班

教科書を読んで
扱いたい主題を選ぶ ← 教科書「を」
教えるなら、固定

目標と学習課題
(MQ)を定める ← 教科書から
MQを決定

科学者の見方を
理解・調査する

学ばせたいこと(MQ)
の裏付け・補強
根拠

37ティラノサウルス?
教師主導?

授業を行う学級の
生徒観を捉える!

資料・データを集めて
使い方を決める

子どもの見方を
予想・調査する

文献? 数値?
絵?

- 資料をどう見るか?
- 解釈の予想
- 発問・応答予想
↳ MQにつなげるため

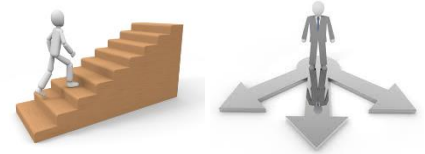
3つのアプローチの選び方

1. 社会科でどんな市民・学力を育てたいか

(1) (科学的) 分析…実証主義の授業づくり

民主主義社会の形成者には、**社会の仕組みに関する知識と誤りを受け入れる知的な謙虚さ**が必要。教室は、科学的な知識に基づいて自己の常識をつくり直し、一人ひとりの判断と選択を支援していく場とすべき

→ A: **学問の説**を探究させる授業づくり



(2) (社会的) 議論…構成主義の授業づくり

民主主義社会の形成者には、**他者との対話を通して社会の仕組みを作っていく能動的な姿勢**が必要。教室は、対立する主張を交わし、差異を認めたり、折り合えるルールや合意をつくり上げていく場とすべき

→ B: **子どもの説**を探究させる授業づくり



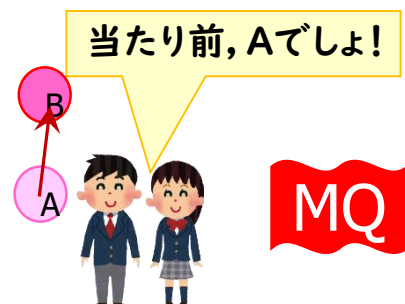
3つのアプローチの選び方

2. 子どもの学びの状況はどうか

(1) 子どもがMQにまあ回答できそう…

子どもに既知の理論・解釈を引き出して、
それをもっと**批判的に修正・変革**させよう!

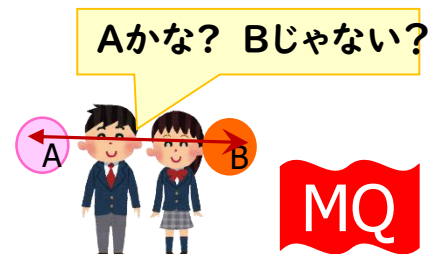
→ A: **学問の説**を探究させる授業づくり



(2) 子どもがMQで揉めそう・割れそう…

子どもの多様な理論・解釈を引き出して、
それをもっと**協働的に調整・再構成**させよう!

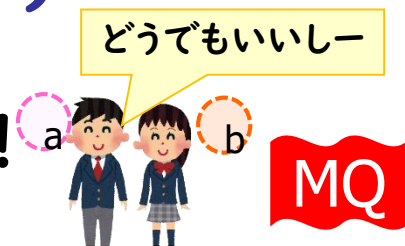
→ B: **子どもの説**を探究させる授業づくり



(3) 子どもがMQの意味を理解できなさそう…

子どもの素朴な理論・解釈を引き出して、
それをもっと**反省的に吟味・メタ認知**させよう!

→ C: **学習対象に架け橋**をかける授業づくり





予習課題

資料を読んで、
「かがみやま映像フェスティバル」への
ノミネート作品(2-5分)を作成しよう
所定One Driveにアップ→ 7/22 17時締切

- (1) 三本松小学校の実践…左
- (2) 棚橋先生が提案する実践…中左
- (3) 岩下先生, 桑原先生の意見…中右
- (4) 谷先生の提案…右

登場人物を確認します



三本松小学校
(指導案1)



棚橋 健治
(指導案2)



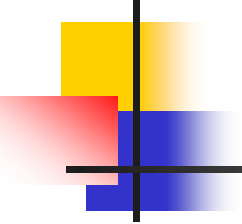
桑原 敏典
(分析1)



岩下 修
(分析2)



谷 和樹
(シミュレーション案)



4部門へのノミネート作品から, TAと草原
で優秀賞を選定しました。

受賞作品と授賞理由を報告します。その
あと, 受賞作品を皆で視聴します。

(1) 三本松部門

(2) 棚橋部門

(3) 岩下・桑原部門

(4) 谷部門



演習課題 I

作品を視聴し、以下の問いに答えよう。

- (1) 棚橋先生は、三本松小学校のオリジナル授業をどのように、なぜ改善したか
- (2) 桑原先生と岩下先生では、なぜ棚橋の改善案の評価が異なるのか
- (3) 谷先生は、棚橋改善案を、どのように、なぜ改善したか
- (4) 授業研究の成功のカギは何だろう？
なぜ部外者 external adviser が必要なのか？

授業改善の事実

—指導案1から指導案2—

向良神社

祭神 向山周慶・関良介

祭日 七月十四日・十五日

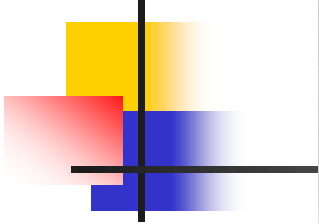
神社の由来

今から二百年ばかり昔、向山周慶と関良介の二人は三十年にあまる年月と幾多の苦勞の結果立派な白糖をつくつた。そのため高松藩はもちろん讃岐の人々は大変恩恵をうけた。

後両名の功勞をたたえて、向山周慶の「向」と関良介の「良」を合わせて、「砂糖の神様、向良神」として玉藻城内にお祀りした。

明治十八年この地は戦災で焼失したのち、三十二年に本殿を



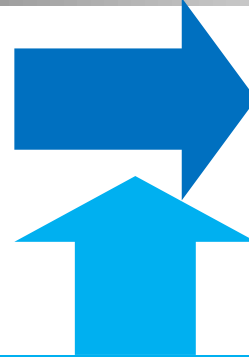


ゼノキ・棉・サトウキビ・茶などの工芸作物と商品加工に有利な60種品目を紹介

授業改善の事実

—指導案2からシミュレーションへ—

自給自足の
社会

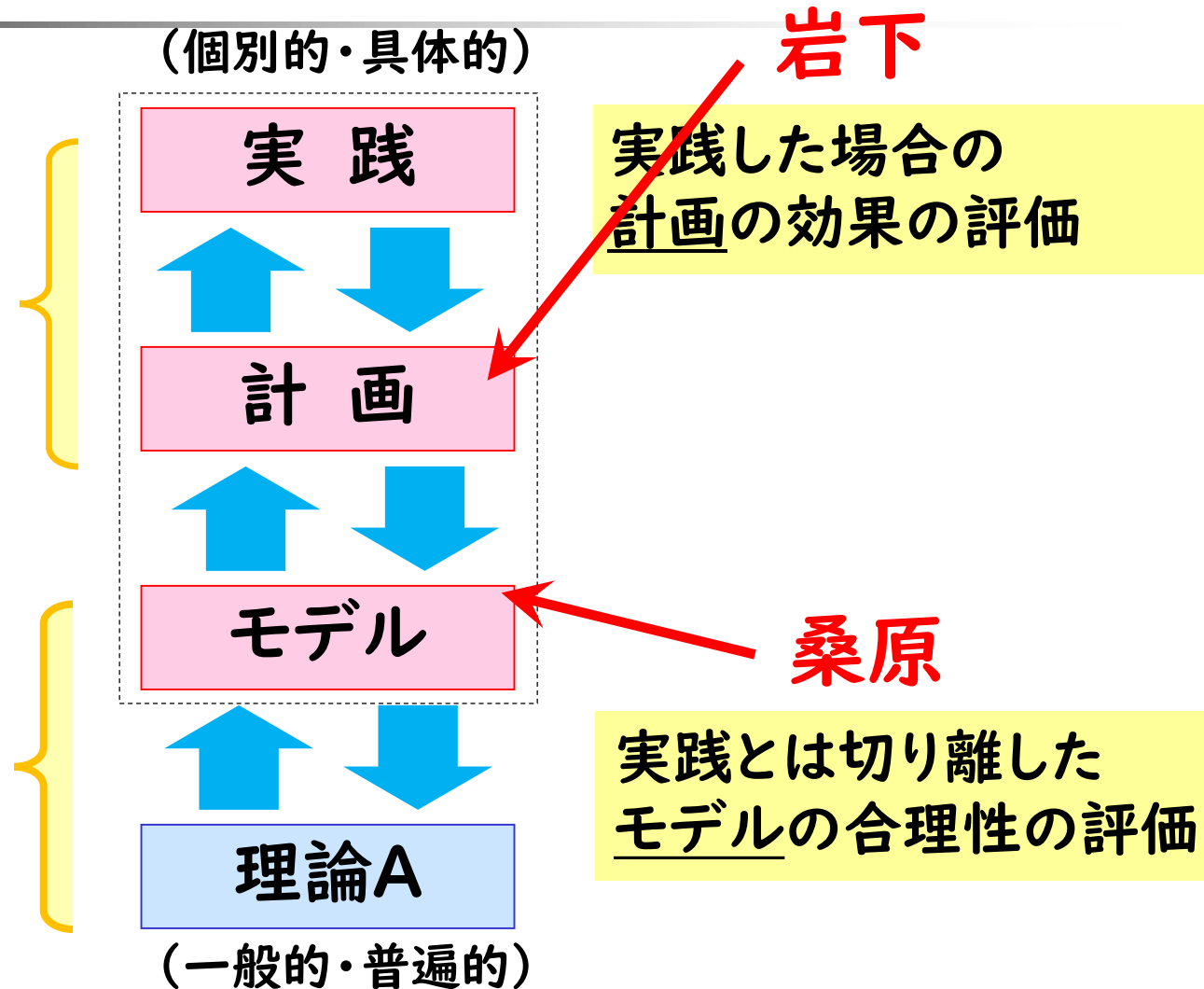


お金で売り買いする
社会

なぜならば



I 授業改善の対象と基準



Ⅱ 授業改善の方法・手続き—棚橋の場合—

1. 目標は、態度・生き方の育成から、思考力の育成に重点を転換する

- 社会科固有の学力は**知的好奇心+社会認識**の形成

2. 内容は、人物の努力・偉業から、時代の構造・変化に差し替える

→ - 向山周慶の**砂糖づくりの経緯**とその**優れた技術**

→ - 向山周慶の砂糖づくりに象徴される**商品経済**への移行

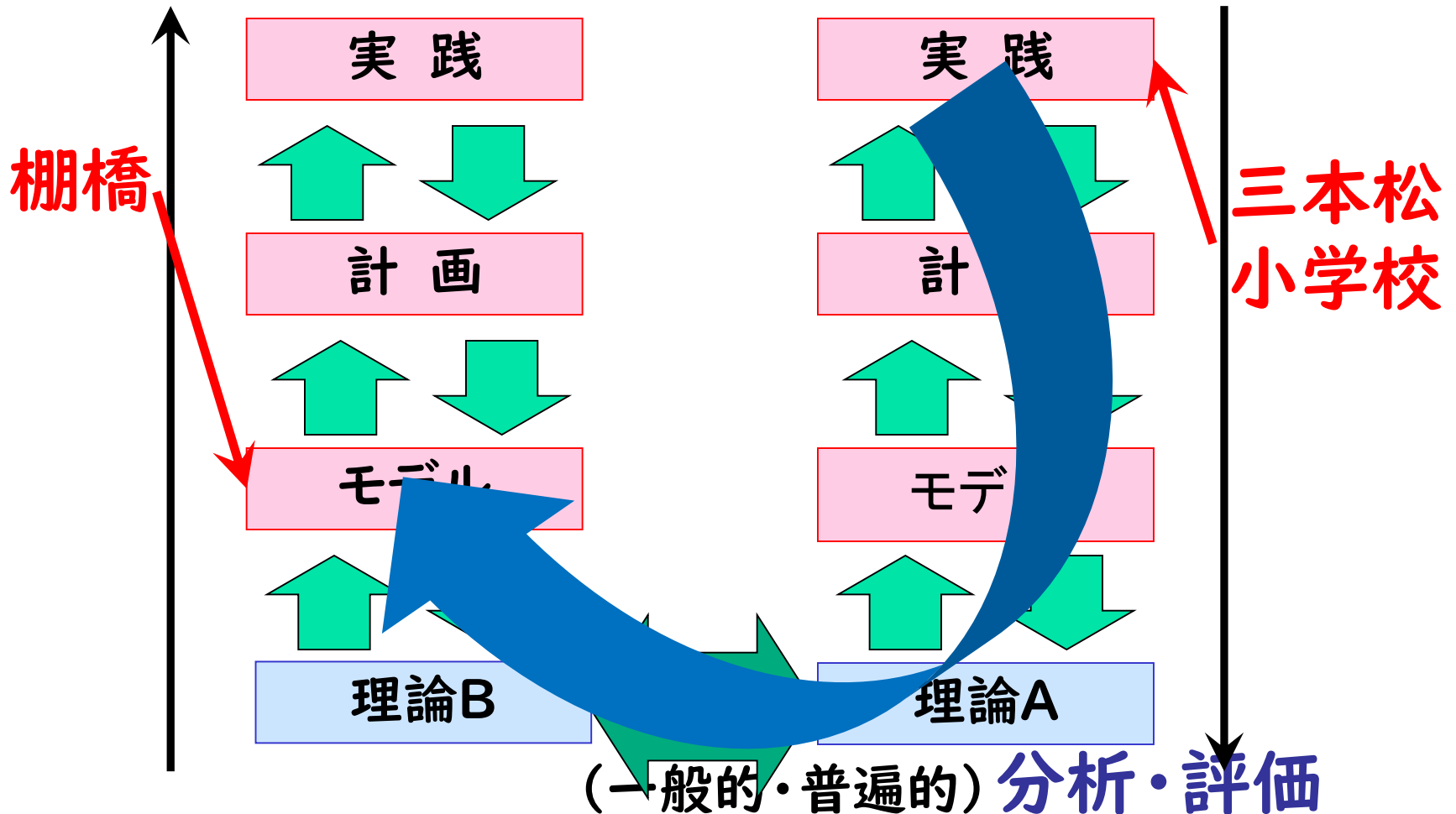
3. 方法は、行為の意味や価値への共感から、行為が賞賛される理由(わけ)の資料分析に移す

→ - 物語化(劇・紙芝居), 評価の聴取→**歴史的意義の理解**

→ - 財政の分析, 農業書**の思想比較**→**社会変動の説明**

教科=社会科の理念・目的にもとづいて、
「(道徳的な態度形成)」に代わる
「(科学的な認識形成)」の有意性を説く

開発・創造 (個別的・一回的)

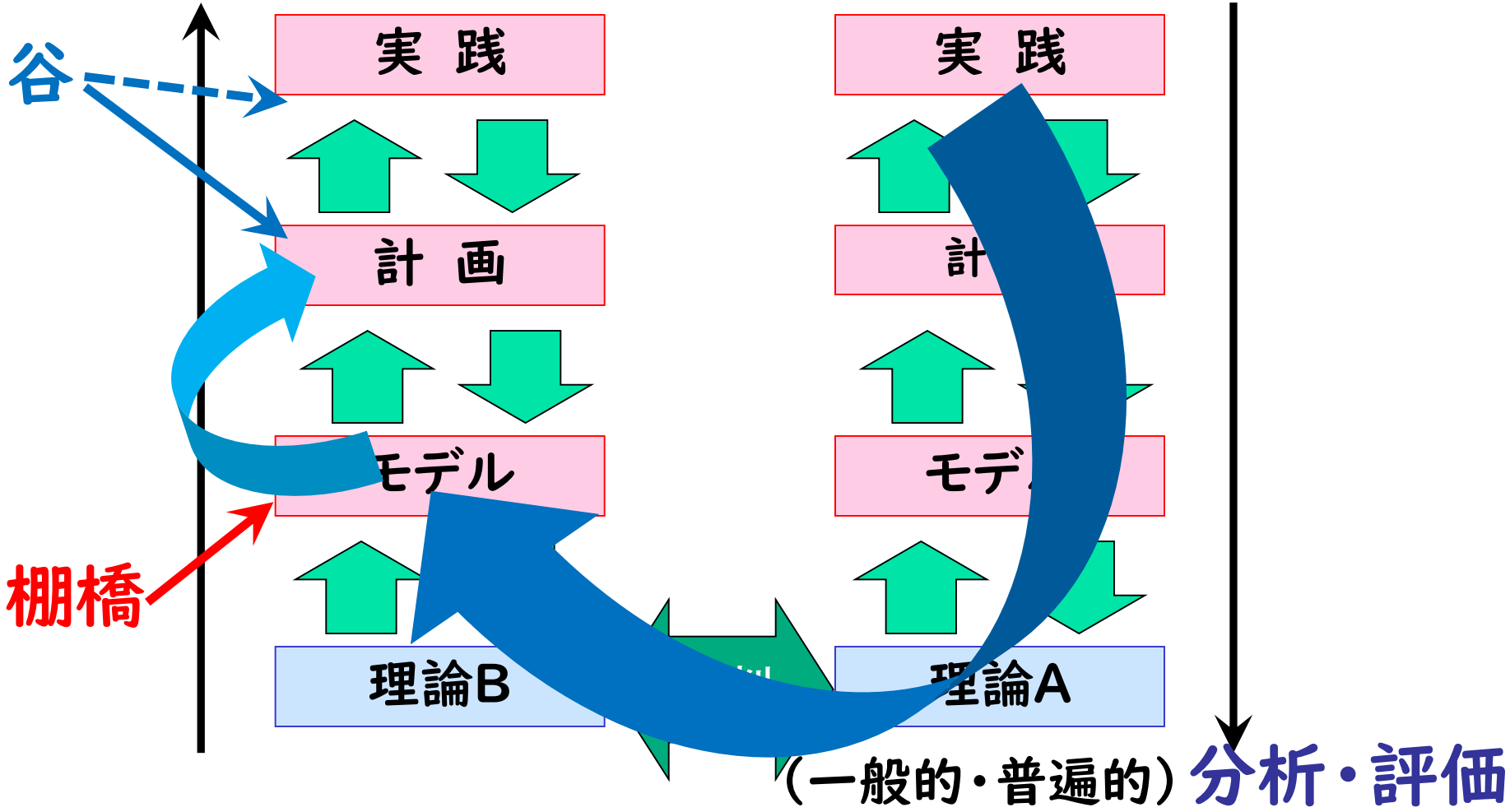


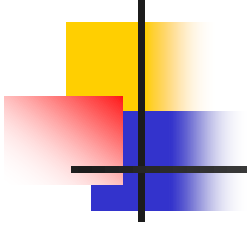
Ⅲ 授業改善の方法・手続きー谷の場合ー

1. 導入部は、子どもの発表から始めるのではなく、
教師の解説に代える
 - 向山周慶と砂糖づくりの事実について紹介
2. 展開部は、中心概念を確認した上でMQを提示
→ 作業課題と回答のフォーマットを与える
 - 当時の「自給自足」とはどのようなことか、調べなさい。
辞典やインターネットで調べなさい
 - 讃岐での砂糖作りの広まりは、「自給自足の社会」を
「○○な社会」に変化させたと考える、その理由は…
3. 終結部は、MAをまとめ、応用をはかる
 - 「阿波の藍」はどうだろう、阿波はどう変化しただろう

目標に準拠した合理的な代案づくりから、
個々の状況下で効果の見込める代案づくりへ

開発・創造 (個別的・一回的)







- 外在的な批判・改善

授業者が掲げる目標で指導したときに予期される課題を指摘し、もっと**意義が高い目標と内容・方法**を提案する

志＝哲学を問う

- 内在的な批判・改善

授業者が掲げる目標を達成する**手段（内容・方法）**に認められる課題を指摘し、代案を提案する

→発問とその配列, 教材とその提示, 知識とその構造,
知識の指導法, 学習形態…などの修正

技を問う



協働＝同僚性を基盤にした専門性の向上



本日の概念6

授業研究 (Lesson Study)

教師集団で授業を観察したうえで、その成否や課題を
集団で省察=リフレクションし、改善していく協働的な
研究。教師の専門性向上の場。

- (1) 目標とその実現方法=工夫, 成果の省察…授業者自身
- (2) 実践の内在的な批判・改善…**参観者**+ (内部の) 助言者
- (3) 実践の外在的な批判・改善…**参観者**+ (外部の) **助言者**



授業者のワザと思想, 両方に学び
改善に至るかが, 成否のツボですね。
How to? だけでなく, Why/What?
を問う協議の場としたい



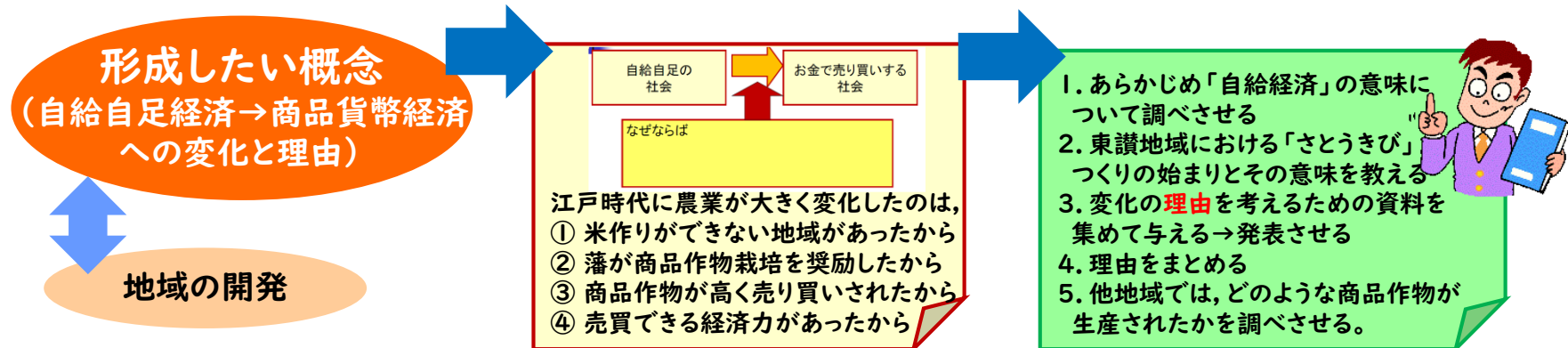


本日の概念6

逆向き設計論 (ウィギンズ, マクタイ)

はじめに子どもの到達点=ゴールを明確にした上で、評価と指導をつかったならば、単元は首尾一貫する。

- (1) 最終的な学習の成果を明確にする…目標
- (2) 成果を評価する材料と規準を決定する…評価の対象・方法
- (3) 成果を表出させる学習過程を計画する…小単元と授業



「棚橋・指導案2」では、子どもの**学習成果を表現させる場とプロセス**の設定が不十分。だから「谷プラン」が要求された



個人の取組課題 65点

以下①～④のいずれかの視点から、「授業（指導案）」1時間分を開発する。提出期限は8月6日（火）、Bb9経由で提出。

- ① 「ナチズムの台頭」の課題を踏まえて、抜本的に授業を作り替える
- ② 「メキシコの借金」のアイデアを活かして、「他の地域」ヴァージョンに作り替える
- ③ 「シリーズ日本近現代史1-10（岩波）」を、講義での学びを活かして授業化する
- ④ 「貧困大国アメリカ1,2（岩波）」を、講義での学びを活かして授業化する

評価規準は、第15講の授業の中でじっくり検討します。

これにもとづいて、より良い「授業（指導案）」を開発しましょう。